湖月抄

うさ舟

五十一

内閣文庫

浮舟

盂尼の居所をとりてうれを号を「橋のうづまき」
をうづまきとは浮舟のうづまきぐらうれぬ 細 九六業平の詞
より三月末までくのるく盂に 花白の年相遇せり 東
宮の尼八十四業乃九月までのまもを

花白の三条院の尉にて
浮舟を見出まつりしひ
細 ひのうよりくくひあ
ひし紀末をおぼしをく
あるまりれんよハ
御白のぬ名をと

女をとりのうるうさと
とゆ 細 雅人とうう
よの浮ばさうを見れう
らゆくと結之嫉妬
のんしり 源氏よりくし結
ふりとかり

あるをとのの浮のうかりしゆ人を笑て
見をうるまるし世すこうくちさ浮ばよいあう
まぐげなりし紀人ぐうのまわうよ
おううをあうしうれとあぐかうれん
みはうらあくてやうみうこうねさ
うゆがうるまるよ女ぐいとうう
なうこうあれぐうようすうれを
のみくうう結ぐり出ぐよんうとん
づめうのうう
ううこうこうこう結ありくいぐて
ゆうのまうやみてう
ゆがをぐやむぐるうさ海よいりてる
し結いぐるれどあうこうぬうさよ

細 浮舟のうを海
細 中君
毛ちり白文の中君を嫉妬のうと倒のうこ
中君

よいりてすまるなどと
とるより
さそうてをうしまつさ
はんさ海すも　細　芝の山
ゐをとゝり　孟浮舟の
をとゝうゝ八白のやぐく
山ゐるをゝさ　孟　我口
づゝいやまずきゝ中
芝のゐを

ゝうとぐめて人のうゝとさまる人を物
いひさぐるくゆえ出てゝんみをさてゝて
をぐゝまづさはんざ海よもわゝざめり
ゝうぬ人の中みをだゝるゝりのをも
の名みわんと物ゝちぬゝぐゝりはわ
ゐまぐさ里ゆでも弱させまふはさ海よ
ゝうぬなどなゝよさつの月日をゝく
芝ゝちむめゝうゝいまゝてゝるゝゝば
よゝゝうんとゝゝうゝ出給てんゝゝりより
ぐゝるゝゝうゝ知ゝりんは爰芝也
つゝんゝゝ給りんいいぐをんいづゝさ
海みもいゝおゝゝゝゝいゝゝりゝゝをふを
ぐづゝんの名ゝゝ海ゝるゝねゝゝゝて

孟白と芝との間
孟ゝゝの人物ゆ
浮舟の中

ゐをふをゝづゝゝさはんざ
まるゝねゝゝゝゝり　細　嫉妬の
ゝゝをゝゝゝり　細　嫉妬の
ゝゝゝゝゝゝゝ　佛　ゝゝゝゝ
嫉妬ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。我をゝ白ゝゝゝゝゝ
ゝゝりよてゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐしをかはよりひなり
まつり
なりうへあさうしねさ
めうれと
仰あげまきの元をと
をれまきねうあよ
中元をえとうふく
ねひまきり 細蓋のうあ
をとり中元のんこ甘元
あきりにめくしそ
よのりあるさ叶ひむ
り大元の吾身を蓋よ
ゆづりのねとぎやう
ゆうまうえこ今へ
をひうふこ

年月もあきりひうを
了てゆきうらくのゆん
をふくうをねん
細さうふくなり
字治まてをりのむつひ

蓋うりの人のうを稜をうをて治まくにこ
れをへ海こをよ蓋をまをれぬんるげさの
なづりうへあさうしねうあれと元
ををくみうしび わひまきり治まて
人づくも世のえをも海こをよりの
元づ元のれんあきりうのりげるき
時づへ世をとぎるりうをくをかこ根元
のゆづをうをしまにもあくで く物
やうりうづうをみもうをめうんよ
と世げをありくゆわくなんれとうめ
人し治うをいうて年月をあきりひう
しをんづをてゆきうらくのれんをあうり

を元くをうをうへ 果
ありうと中元をのうれこ
しくをて先いうづて
蓋のわんづるりうと
と角編をのう年月を
海て色よ白元の方にき
ひをうひくゆ別法のう
うれづえ朱の世紙をえ
らぬ人いうあぞうづ
しをく
つをくしうれ 三こづ
をゆうむひをもを
ひうをく大切まする物うれ
をう
ゆうづのうりをえねな
ひをうり 白の緞ををうを
中元へ株をるくうれど
蓋へうりをえねをあの法
の法をうを

りをへうをう人も 盃いつ
れの正脇ゆをうをへあう
りをうをを 三 元が
ををう

をぬ人をを紙くしををづ人をををさん
りのゆうりるうむひをを元ぬり。
つをづくしをなまよさまををを

ひ月のつゝもり　細　葉ゝ古

の正月こそ　中　中

ゝてゝみゝゝり　師中

のゝゝ文のゝゝり

つゝ文　細　花香の後

つゝ文ゝ浮舟のゝ

て文ゝた迎ゝみゝる

花今樂ゝて文ハ別ゝて

ゝゝハ蓋物ゝてのゝ

ゝゝゝとゝゝゝゝゝて

つゝゝ嫁娶の後朝の

懸書ゝてゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ卜畧　わゝ紫紙を

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝの物ゝゝて

細　ゝれも宇治ゝゝ殿

ゝ浮舟ゝゝて

ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ　孟中ゝ

ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ

山里のつゆをさこそ
細初句ひの終ざるとス
ヨ伊兵山里の初よへ
ぶりていぶせくつれぐ
なるかなるへし

やまとなるその女どもの中におうさかよりて
うんうんとけぶりとぶけんどんの法ぎさ
んぐぬ家をるれがさばうんよ女のつぎさ
はいでわるとして（細浮舟の文の段）伊中系へをくしきこと
なりてみく（細）ぬがつるるくてとうれ伯よ
けり山里のいぶをさこそ茅のうすきこと風
なくてとて（細）おぶのうすきこと　和槌とまいせきこと
やうう伯めれどうさうこよらうく
ぎうふうをこれど（細）ぬうこと　白文のこと
てこのうてをこと（細）ぬうこと　目三
まして（細）ぬ近ぐ文の段　盃をもぎ文衛ぐ文の段
如法まうてうふをいうよりうきけうう

うこよいとめてこ紀
細宇治の段ぬ文こ
うこどここ　暁宇治の
をまぬのうこ
ぬうこというんこそめ
でこきこいらこひのう
うすれだくいひ色
うこ　盃日お茅の法
丹のうこをこ
めてこきこうれど花
茅の終ぎらよみ山ち
くふこうこぬこ

和づち　細和枕用ーこ
こ　年中の悪鬼を追
く系ぬうこ内裏よ
なうぬ　盃年中法華
持統天皇三年正月の
和の日大ぎの裏こう
れとなうこ日本紀
よあうこ文仁孝二年正
月諸陵統枕を歓ど
て格賜をとふこ

こびやうく伯こんこうみけいとめでこきけ
をまぬのこ
らどこをうこ
せ法こうこ
れんこうぎこ
うこ　盃白文のこ
くぬこうこ　暁
きここよるげこを法めこ
こて和づちうこ
らんどこんこ
こ海ぎこ
こうこ海のこ
くあやこ

細中系（法如あれこ和せ八浮舟のこ）
細白文のこ
細白文をこう
細白の段

[illegible]

上よりいとをりの中よりは生氣のうせし獣をつくりて卯杖よりあそーむ[illegible]八生
氣をよりあり[illegible]南よりハ馬をつくり[illegible]基盤をよりとり延喜式よ正月の
卯の日[illegible]督[illegible]とりて[illegible]杖を奏[illegible]
三寸づつよりて三束三束よりゆひてなりとは杖[illegible]
正月上卯日御杖[illegible]江次第ニ曰春宮[illegible]献卯杖大進着[illegible]藏人進之次ニ
大舎人進卯槌上下畧[illegible]卯杖卯槌[illegible]中表の[illegible]細字[illegible]
[illegible]

ぞとのの人いむしのやまぐとよまきろろ人の
むをめけざろやうありてけぐろうこよ作ろ
とろんを作ろ[illegible]白のを[illegible]
うまろ[illegible]ぬ文ざをこんえろつよ
細武例を思合ろ[illegible]卯の[illegible]ひしーん[illegible]
[illegible]
卯づろかーう[illegible]
とえろろうやを[illegible]
てつろぬをろ[illegible]

[illegible]

[illegible]杖[illegible]
[illegible]細[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

孟中素のかはるるまくの
[illegible]白の浮舟花文
[illegible]師浮舟のあとい
[illegible]

[illegible]人の[illegible]
[illegible]三大素の名歌を
[illegible]
[illegible]
[illegible]白の色に紫を推量
[illegible]
大内記[illegible]人の（細 [illegible]）
の大輔[illegible]
[illegible]

[illegible]
三素の家人は仲信[illegible]
[illegible]は大内記[illegible]
[illegible]
師古人の詩集

[illegible]
[illegible]
[illegible]

人なるべし。あのさうよらうど法師の
のひとこうれ（細白の心）をもてまつりつつまい
る。面なるこのさしあてみどりつて京ちもも
いとものびてさうぞきことるどとせをふ。
いるるさいそのいどのさそぐよろぼそく
てねる（子なるんとれんさぐこのもてす（細白の心）
のろをひやとさてまんしとさてもつて（細たし）
うまてくとさてつうれとゆりてさて（細ひまをとは法定せんとて白の
そのそのの人といとぞやうこよりとより（細肉記の例）
ものあるまでとふひ法とさてしあまは（法寿のこと）
らるるんをを伯をる。ひ人いまをそれ
うるんさこるげたさ女房などもあ

三三家の京ちもれはををつ
るくうし
いるるさいそのいどのさそぐ
よんぐそくて
物幸いあるるぐしを
ちまるるをつも
ひんいまこてこれうち
よるん（物語文新造の
ちん面よすも

れいてこさあて
装束のもどのもも

まこて。ほるこうぬけそひてみそ伯
ふとこそ。かこさこれ（細白の心）伯のこうあ
つていうるる人をいさそを法つこん。
れいてこ乳をありて。なべての人よにぬ
出ころたりや。ひどりの地（細夕毛）などこの人
乃あるりろ（ぞ）ん人すこそて。山ぎよるちさ
ともそれいどこうる法るうるぐしさし
ぐさあと学しとげよるどうさこれ（学）
のこうめは思びありこんる紙のる里
よんをとめこうるんさしこうこ
こそいあるれいづこひとうはまあ
るうとさこうる人しとこるよ人のこひ

物語の心里よをを
やこうこうんこそしうる紙
るこそは（物語の家
と世りふとづうり人のこ
ひしよさやうの女ども
へる（紙）
こよんのこひいこうあり
さくまるる（細白の装
をあどくりのるるり

盂蓋八宮法皇人とゝ
へぶるくのすをせく
るくと白の御しゝ三う
ちゆきくるゝ紙をもうえ
ひさうくらゐ蓋のゝゞ
まゝ御白るをくこ
くるゝ

の蓋はさゞくるくる
くるい 盂蓋のゝを入て
くるいくゞゝくるくいるゞ
くくくく

のくるゝ西寿 盂 河 贈引 井 正月十八日 皇弓 陽成
くくくゞ西寿之 内寿
八正月廿一日 文人博士 だ
後の治を他て内あくて

つくるまゞくさゝ西あくうゝ人くくくのあてい
くゝくくゝくゝくゝ

あてすることあれば、うみはきもべき
やうなる紙、ぐりのうのぞさるべど
して、それらあるぬうとしてごめんとるん
やりふいくうの人よきうまづきうまへいい
うぐもべきこのさまへどあれもづーりと
ちんどおりまきうんこいとあるさんご
えよるん作れどこよ紙ともくいきりつ
いどるんタつこさ出せかりまして、文子お縁
の門みはなきまーつきるんさて、曉よこ
そそうかーせ法るるん人のきうる作ん
らるきおたしとしくいぐれとよさつひ作ん
ぐれもみきこうるいそれ
ともつきうるいぐうきうる作ん

人のきう作ん
およ白文の人よきれ
まづきくまへいづいきぐき
よのあーー巻人し
それもみきさいりてき
ま作ん　孟内記文
それ八五十紙ものとハ五と
も白の内機よきうり

ときれハ古代の人もきう
きるハ知りーきまを
ちくよ入やうにして媒
をするまるまる紙巻に
あるまるこんるん
ぬくあるまりきこんに紙
内みりを　作世の恩をな
を人の紙もあきとハ
きれどもるも人いきう
まづきとりひてあや
うきるまとして法よ紙
さめ人のしあまりきうる
雑義よ及ちまり作ん
白文のぐひるるへ
人のいまりあまよりうるホム
とつくへ

三句の姓と云あるまづき
るまよ巻ーあぐ巻ぐ
よるりていと多ぬ姓と巻
を姓文まるきうる方し
あやしーきまてんをあて
せて　恙の中去よ媒せ
られーるを姓りおて

紅白の白おりーー中去へうひうーーひ
きるーむりーとびこてびーるひーーそ
ちまりうぐちきりどきりひめづきりを
のやしのつまりきるりて花くめう
まづこきーよ紙れんりをりがをどーう
まぐうりぬひつれどえそひとづめ法
つどれとをよ。きりもりこのあるいきれ
まりりの二三人ば内記さてハけめのとごれ
人法義人の叙尊　出雲作き時方し
義人きりうりえてうりうきんむつま
しきぐりやそりまて、ある孟巻の内記とりく内記ゆく
ぬれてもおいをづる。内記よりくあるいきくあ
ひく。ぐそうう法よつけてもいめーへどお
ぐ。ぐあやしーきぐんをむをを法く。

をんなのうめようろめてきこゝろもとゝろくもぬるをよまへる人の不仁なるをもろうて人のいまゝめとすらもやさいゝどえゝまをぬけるあ物白文の姫なるをくゝまひて所移遠をもろうきやゝうれど京の四みくさへさもぐかやゝの思びありきいえゝまをぬをうて

みてありきこゝ人のをあようろめてきこゝ
ざみをあろうれとぬがいづこをさ海ぐ
なりよ京のうちぐるむげよ人をゝぬは
ありきいさはいゝどえゝ給をぬけるみゝ
を。あやをきさ海のやうれすぐきて。所馬よ
てゆをすゝこゝろを物ゆをろうくやまま
しをれど。りのくゆゝさうさいすこゝろは
ゐるれば。ふゝ
るゝ人をあるゝ
ををこゝろもさをぐふゝうさゝじの
ゐどまぐぐ。給車みくをれをりぐ所馬よ

いををまろうをいをぐをてじゝぬをぐろ海ぐよ
おをゝまゝぬ海紀あるみをくきれろゝの屋の
よ第四とをひをゝ人
ゝうぐ。あゝぐををめゝろゝりてとや
ををとゝうをれべ屋ぬ人あろをまへ
まぐをぬ所すまるるれぐ。ぐくゝくれぐ。
人をげゝるぐゝあゝゝべ寝屋のをれを
ゆりてまぐ海
をすゝまゝりてまぐひをゝ海をて作ゝぐ。
ぐゝれゝゝりかゝまをんゝをゝるぐゝて。れ
ををまゝをゝをゝのゝりてゝゝゝゝのひま
あゝををゝけてゝゝ給よゝをすをんぐゝく

やをゝのゝりて
物白の海へのゝりを
いをゝををゝゝく
幾伊与薦のあゝくし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三蓋のまゐり畫

細蓋の法

白の法華の蓋

孟白

孟法

孟白

孟法華

中蓋

孟法華

三二重塔そのまゝ

孟白

中蓋

孟法華

三二重塔そのまゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三人のあしをさすりてとのゐ
をしてさむしとの玄の素
へくれとをれどもとも
なほがさねく動ずるす
がをそろくれば
ゐるんずるとも
まろやうやんとろうるぬ
おほけ方ろくよくられ
よりひてさて長実よハ
玄のたろうさるぬれ気
をるれば雅もく多を
ありもずとも
さろやくありて
おしべのたをあやし
そうあるくゆへ
ちよく

孟白のはなをそ
らずとをまでぬべ
とえをりてけく
よハをろうるう
べくれもくゐ
もくれゆさ
人よをくをを
とくろるく
とをすてけく孟
さろやくまて
ををてまろ
ありるるあ
てりくまろ
孟張老の頃
ごろあるみ
そうるろ

孟白のはなをそ
まりやう
ぬけ気ををてまろ
すてくるんようく
ぬるりをていそぎ出ぬをを
まごうはいごばろごさ
細茎
ぬるよ
孟茎とをつはるを
ていをぎをのびさををを
をまればををていをごさを
ありるるあ
孟茎の頃
るくつけやこうをやまはいをを
ろ山ぞう

孟白のはなをそ
をををを

ゆめさつ〜うつつ〜
細 義之 義之 物忌
みぢ〜ちく〜母恵のこと
〜浦り浦とも今
日八〜せ伯ものぢ〜
そこにわ〜名あぢ
三句へ古近八れまあと
えまう〜せれば浦母の
ものつ〜もつ〜ぢれとさ
すがあく浦母もを
わ〜ひちぢ紙もりろ
ともにと白のひろ

のぢれ八〜れ
〜をそつけ〜り母恵りやぢ〜おつす
〜て義之ぢ〜ぢ〜りつといひるをとり
ろり恵てこ〜ぢつるぢまつ〜ろさ海八例の
やうるれど
孟 浦母の恵いやこそそろるまとそ 蛍
てそこまよ
とんうれと
さ海ろ〜〜
細 白のこ
問のまもこぢ〜人をこるこ〜ひろり
ぢ〜人を
孟 白文の恵りこ〜 俳 浦母のこそのこ
んぢ〜ぢ〜とはぢろとはふま
やわ〜と白ものこ
分れ〜れを
孟 中恵こ
ん〜ゆ〜げ
孟 浦母恵恵

中恵ぢ〜の〜人ぢすき
こ〜〜八とぢ〜ろ
ぢ中よ〜ぢ〜人のと八
中恵〜中恵のものをひ
ぢ〜〜ぢひ恵こ〜
れぢ〜〜ものよ人八ものの
伯よ〜人ぢ〜て
びこ〜ろとと〜ものよ
ぢそろ〜へ〜

ゆれど
細 浦母のものをゆ〜〜〜〜浦 俳 浦母の俗姓とこ〜〜
よ〜む〜〜と白の同こ
ん〜ものよ〜
いよ〜ろ人表なろ人こ〜〜ろ〜ものこ〜ひ
ま人ど
浦母のものをろ
ものこ
ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ海よい〜人こと
ぢ〜ぢ〜ぢ〜

そうよ此迄人のくらのまりうとをさつてうたとい熟味あり
そうへ
たをいうよせん　孟母のくさうの迄乃ものよ業のすーあをとそんとすれハ京よまー
ますす故京をて不審しちべくれべいよせんくを去迄ぐくく
ぬくすすうとうひさくんよ京よさばうりの人の
おワーぬくをせべ　とのづくくさうひてぐく
れるさくくもくあれとをそこれ人くみる
もをあうせぬくく　孟左をの業ともみ
くくよいひあくんさぐ　ぬくすくくべうけ
ぐれををて　いくくちうりくさくくぬぐ
すげくめるくくよこくひ業くをけべくく
くくをせをてれバそのべうつくーまをせる人
どくるん拘いくくをて作ぬくくにあくく拘
のくを海くびの　寺のひくのりのくを
て人ぐよりめるべくくをてやるうあよ

ぬくハ拘ひくくをてお弁庵を
くくくをせるぐさくあり
いくを
それ拘ハるびくうのくを拘
くくくく人　三白文乃
日をくれくくくを笑をを
を人よひくれて浮舟乃
くあをくくくくれを
くくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いくぢをぢうつひぢさんめをえたぐらい
あかまつ　くるんだるもいうこうえんとすん
さうくべうきはとらひきうくハひるぐしおやしきまで
ひうしうむつまうきはまうらんのべてて
のうれうんはどづうまさいうまぞや
まのうくひいふうをめればまうどとうう
つづとうくうをもうぐうくうれ浜え
んをうんはうんおまうんはまうれ浜ま
じうを海うてうくうぬをうつまおえ
うるれうてまうんうそのの沢ふうへく
てうこうりぬるぐさうくぐ出浜うんをを
ふつを神の中うてうぐめまうんう明

ひうつ河く実ふさぬえ人の河まうをに
神の中うて　ぢかぐうし神のみううやへうんわづうあのうれうちをうお苔ま
地推してうをう

うをうちぐ　孟　このうをう
うう　もうくうをうをうお書
の別うう　れうをうきあへ
浜うれづく

浜をを　孟　浜ををへうきう
うあれへ別をいうのうぐ
ぬんをうお我敬うぐで
浜ううき神ゆへ別をもえ
をぐめをうをうをうひて
ふう
をのがうあく　白　ふのめ
のうぐくをあけゆけ
バをのがきあくううぐで
をひうき　孟　月

浜　白　世のうまうぐまをうを
ふうをうをうをうをうつ　女をうぐうく
浜ををふうう
あうれをは　浜をを
別ををう　白　ひぐうを神ををうをうをうて
をう　孟　ひぐを月ぐ風の者もいをあうを風
をを　白　ひやくうをあうをうきをうをのがうをぬぐく
のうをのふ月ぐ川うをやうをあうきうを

みさほ二人 細 大内記とは
方とかきり 盃目

ひとりもこのうちよ
お 中ゑ人くらひうひ
く

女房のいとふうう
お 法華のみと白のえひ
て いかひ附中ゑの紙に
のうえぐうしく
ふやもうきうこよ お 二条殿
うて白ゑの別よおう

れどけうをのくていとうれみくし
とうく いそぐよいそぐつげれど
白のし 紙をあくで出るぬ このみさほ二人ゐんぢ
馬のうちはうみくひうう さうを山こ
えうくぞ なのく馬ゑいのう 汗のうう
をみうすう馬のあをとうくぶがうく
りのうす むうをこれうちよのうこうい
うう山でういちぶいあやしうう里
のうぢうう れとぢがうと二条殿よおう世
つうて 盃中ゑの法華をうくひうれて 女房のいとふうう 中ゑをうくうう 法華ぢうし 出ぢがう
をつくうん れぶふやううきうう 中ゑをうくうう 法華ぢうう 二条殿ごうう
めうよ 法華ぢれ法つぢていとうびちうきうよ りの

中ゑのうくく
うつよりうう
中ゑ
法華のうう
ぢうりうう
うくおりうう
れいうぢあり
うう法物うう
もひうう
うてうう
ていうう
いうんう
ある
そ法のうう
れうう
うの海いう

盃中ゑをうくたこ
細 白の須
女房ぢう
うう
うう
う

仲忠のの人ぬしとも、まめやうはさうの法ゥ
みしとらて、細中忠の母と法のをく法てハとも
ししバいとうまうはやしるすうはうとん白女(中忠の伯と)
もやうはうはりんそわさきそれ、ふうさ
分みはそどろなうこもいとうしくうて、
そむさまつり、女もまめくらまて、白女の母と
もトくて法弁と業の母とすきをくそのすて
つしとどうきくもあうこんはいくれ
ぶきうぶ、本はあはとうぬんうは、
ひとうもうぶしうどうぶ、そもも白の同ふひーは中忠のれうさしをうわ
業人みはうるうりはうしまぶうり、
てのうて
それもうぶうきうこそそうとうこ
とうて、法れんのうさるんいとふうさ

細法弁のうをあ法ぶうるう仲忠もうはは伯とあ
く中忠のでてうふうのうをとひてやは法弁のうをうめうう
もくせのうとうるうて
孟法弁のうをとうくは
れうれど宮世あれどそ
我ハ女てと白のうう

細中忠のう業よのるんの座ちあうべーとう
まめやうはうをいとわういうやうなうこ
白のうて法弁のうう
細
つしうぞーと私がーは出るは、涙ぐまれぬ。
しの法みはとうぞくとのうとうるうで、弱は
いくんぶ法んこうるうり。酒のうるうさ
酒うてうこうめ法ーはうるぶうとうとうろ
らうるうとうり法はうていあうめうてぐ
ろうろんとうぶうてそのんうを紙ん
つうぶめうるぶーうあやまうぶ
をうる分はうてとぶーつぶうるまうう
ぶうるーくていぶうううけうれうえ

相うううさ 細或この
嫁(カヒ)要の業えるうて業
のうりうう法ーこと
うくく杉白みも中忠の
他神うやうまて家ま
うぶれ業みもうう
はんぶううんと推くうぶと
うえうとは推くうぶと
うこうろうんとうるうて
ぶううとうとうを法ーうるうこ
どのううこうふはて
あうーうる
をんうせをうひううめ

師匠のかたへの移ん
こころざしをうけつたへ
ゆへよりなれくしくも
物てかなもさびれ
みへそれらさ身のあやま
らはえてもとをとと
ぬがもと

あんこうけこうとは
孟白の俳諧はさきうつこと
をは聊てこそ面
は根ふかを中花のかはは
蕉のうをとうさびふか
とうなられこう細雲
ありやすやと細白炭

は蕉のうれ蕉雲蕉
えうんこうとはよき
うでいかこうと孟あ
うやうやとは炭木の
うこ白の歌をえうこと
うとこみ白炭はこ人の
いうこうこうこうは炭雲
とうこうでハんづこうこと
こ晩
あうこはうこうのひぬ

ひうこう。そこうこまで白の俳諧ふかを中花のうこうこうこ

月日を（海苔）伯ゑびさすんうと地ゐと（細まよ地）例ん
ーーをわうぬーこのつでようよ（墨の）紙いまあ
ばりくすーなのり海をわ（白の）さりまて。
ちゐがよのまひやゐ紙ぐうーこんわう
をいうをいうをの結いまーうれどうう（海苔のゐをうを）
（海苔）のうつれぐーもうけ海ぐーいーうーげ
ようー　まんーあびんなうわざうれ地ぐ（細墨の）
うくーうーぬはーうのうすぐよ日う（イ屏風）
ぐ山ういーくわうーよ海ゐ海ゐう繁
うーうーせまんるぐ。まあやうまゐ
をうを出まぬ。（細白のたんく）（盃墨と白のゐん）げまんうーう。
まぐあうう海をいうよゐうぐんぬぐさ

うーうをえわうひう
といくのまんま
只のわさん墨の美人と
自然ーまーまを白のひ
やうりまふをまーてく
る海舟のまをとえわ
ーまひていよのつゐの
時まーぶいうぐりうは
墨よのまんぐさをう

うーあうう海というる
盃白のあいくーしさ祈を

墨とうひうーんて海舟
のえうーうーをう

海ぐあうーうーよつけーもうぐこのひ（海舟のうーうを）
ーう（海舟のまーまを）河のまーまれど笑ーいぐーこよ
は石山もーうまりていーうーれぐなうは
（細白のまを）まはいーいぐーうーれうさあいめ
まーてうーうをーそれぐーよんやをうーう時
方とうーーうーのすーさのーうをまーぬ（時方う爵く）（細役者）（伊下人く）
ーうんやーまーうる。ゐをうーあうーこれう
ーうん人の後ゐれをまーまーあーうーさ
らぐうーて金ぐうーと。ゐぐうーーみはいひ（たをうのひうーーせーうを）（ゆん）
ーうをーうーう。ーうーげゐをーぐーーうひ
ーう。月ーまーーーーうぬーうーーーーーぐ（細二月とすぐ）
ーまーーーーいーーーーうーーーーう。ーうーのーーーーー（盃白のを）

それぐーよゐをーうーず
ゐんぐーよ自ゐーーーーーー（雑を）
（時方とゐ）ーくーーーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のこゝろをもてきこえんと
細白文字より白文字
盃白文字より墨
いとのりけてまさ
つまるゝ

うゝもるゝ人
お浦舟のうし白文字
おもうてひて見文
ぶ称もんのとゝやみ
れどもうくこゝはゝるまで
きゝ
この人よりとられて
盃墨よ足抜られて
ちくるゝうんと浦
のゝ

月比よこゝ拍のゝ
ゆびまゝり
盃浦舟称

じくてみゝはまゝりて
でゝ表し人のゝひぬ
でゝ
とゝ
さゝ
ゝ
ゝ

人〻はまだ白雲もさゝぬるよのまつ
こと
わらしはまだ月はなかなか白
のまつ〻そらの人〻はまだ
うち出て〻心うれしく
細く枯れはてゝ蓋のうく
ゝ葉をたゝく蓋のうく
さゝぬるこのこゝろ
お浦舟のかゝ白雲ゆ
こぶれてもどろよすと
蓋ゝとぶくを恨てこ
ひてらしのうつくしさて人の
ひのすゝみのあるゝ葉
とひわつひまて
つゝらしの夕月夜
細作〻われど今月
只上旬の月なれ〻
裏ふの名をみもわり
咲ゝまくの葉 優なれ
月のワーめの夕月夜かな
しかも出ぬ二月のゝ
ゝ

ゝゝゝ 細 鶯とみゝろ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ 優な
ゝよ付てゝゝゝゝ
盂鶯とゝゝんとゝゝ
ゝゝゝ優めよゝく
ほ蒼茫霧雨之霽初
寒汀鷺立

ゝゝゝゝゝ人と見
盂〻〻の人〻りゝもん
のゝよ〻ゝん所よりて
浦舟の大蓋ゝ似ゝゝを
見てゝゝゝ
形ゝれもり 細浦舟の蓋
ゝり盂み中びゝゝ
人の形めゝゝゝん

幾白のゝ人ゝゝぬゝゝ浦舟のゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やまいのやまひ
同墨の夜のやまいのや
句 梅花　細 浮舟のこ
衣ゝゝゝゝ
とを引ゝるゝ　孟 ゝ
しろよ衣ゝゝゝゝこ
ゝひりや紙をまゝゝん
宇治のゝゝひめ
ゝゝゝゝ

おぼえ人は笑ひ給ふ
[illegible]
獄のくるるへ
いとるるらんゆく
細句文打言は物語
[illegible]
しんしん
[illegible]の人のはかくさみもをと
ろかれ　孟　恙の衣ろうそく紀
[illegible]と通しまひを今の少
てはろうそく字法へゆき法
也

内記八式アお補をうん
おれ内記除目ようろう
をもしと八式アお補をを
しこや紀式アお補とけ
ようとうとあうしく
ろう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二文字を　細うるのうのうちの芝
盂白の中ごとよりの芝
文字おなじ　浪丹へ
作[illegible]

[illegible]

細　[illegible]
[illegible]
[illegible]
細　[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋の夜はつゆ
くるとをとぐめるて
はるはつゝ二日と
おもひの白の拍子のう京
のえうそも作れ
るるべし

あるひはかくれてうるう
まるし
あぶやぎされば　抄舞也衣
裝のうくるうる術
出てうゝ川まうゝセ　細浮舟
よてうゝばをとけさせられ
しこぶうるうゝ
まひるうるうゝ　孟白へ浮の
おうはあぶうゝもうゝ

と人のうつるあうゝれんと。てしまふ云乃
えくうきいえんうきす。はるのいゝ二日と
こぶうるうゝ人へ迎べこうろのどうかうまゝに
うゝよ表しのこ上うゝ世ぐうゝまうゝ
いゝうゝぐよ迎いのいひまぶゝうてはそる
うゝそまうゝうゝ　浮舟のうゝ
うゝぐうらうゝ　細浮舟のうゝ
ぶゝ。あうひおうゝうゝへてゐまうゝ。浮舟
あやしうゝ　細蜜
とうゝ人うゝと浮舟ようゝ世まて
うれいそのうゝ浮舟
れてうゝぐひまうゝを浮姫えようれをして
せうゝ白のうゝ
まうゝ

そのうどうの人よ見てうゝ
ぶと　孟見ぶうゝうよ
とうきあふぶうきよ見間
美よ孟あひそうゝ

うゝにめのまへよぶた
孟美よあひうひそうゝのゐ
人叫よ浮舟のまうゝもる
うれハ月のまへうゝも秋よ
うひうゝぬうゝ
うゝうゝてもるうゝも
ほうゝうゝうゝもるうゝも
いうんうゝうゝるうゝ浮うゝ
うゝ白うゝ秋るうゝうて
三月ぶうゝうれり

いうゝ友ぶんぶうゝうゝうゝの人世ゆうれどうゝうり
のうゝ海うゝうゝうゝうゝやとうゝ浮うゝうゝはなうゝまで
浮舟を盗うゝうゝんとう
ぶひうゝうゝれうゝうゝ浮舟のひうゝうゝうて
しうゝん浮舟うゝ紙をうゝのまふうゝのほどうの人うゝ
うゝうゝぶうゝうゝうゝぶうゝうゝうゝうゝうゝうゝ世浮
浮舟
へうゝいうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
浮舟
うゝうゝ　白ふ
ううゝぬうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝぬうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えそのうつくしさ　細いもよ
あつぎぬてのうへ　白のうす
ちねのゆやのうつこのま
ゆこりいぶせくもある
ういもよあくもぞて　仲中
えのはいさあよんうを
うぬをあぶさとは
いつくうけうとは
双紙　細　面の中を
ゆりひやうくうえし
おそさうるくとは紙乃
ぬよりけてうり

えそ　ぶりうす　ぶりれば　ゆやのうう
こは　ぶをうさ　細　ぶ舟へつうさ　ぶすとうぶ
けうつうさをぬこぶもうさうて
今
うぶめやうそうこの雲もうこぬまでを
えうううこうのうびうさ　筆よまうをこう
うをうるうしもうぶあうしげみ
おうさうのうとういとりくうぶはあうぬわうさ
細白えよそんはひくへうれぶ
ううよいううんをひもはうりめべ
細　筆
きれぶうぶめううちぶうり絡ううはもさ
盃　筆と絡舟のうう
すぶようれはれいて絡めううひとぶううのめ
おうさうのうとういとりくうぶはあうぬわうさ
ううううるぶうう世舟とうりめうぷめる
白まう寄通のうと筆のううけうひてう
ればめやううううううううぬつけてやうとう

うとうとうふやうもう
筆ようはうれば絡舟と
ううはうえんむうんうとう
ぬうう母ふもふりそうぶ
うられて不巻うんを

あうううううれの
盃白の二巻流うて絡舟に
うううううひうけのうう
我ありうはのともうくう
わうんと　の二巻流うて
白えのうのうよう絡
をううえうて
うれうう我白えよう
うすうられうはうれ
ぶもれうれうう巻絡

絡うん世ゆはいぶでうあうんいうううとうひ
まぶうぶやゆをやりぶでようううぶうきみうう
ううそいりてうぶううれめううんいうれう
細白
うあうえううあうぶうはんのおぶとのううう
今のはんうのううひをう
ううばううう絡ううあううめやううう
盃牛老
細ううう絡ううぶううう
うううすうううひうぶうう
細ううう絡ううぶうう
おぶううぶうう
うんううけうはうのぶうう
ううううううれううう世うりうれうぶあう
白のう
ううううううぶうれのううぶうぶううようぶうう
我ぶ
うりぶうて我ありうう海のうともうく
筆のう
をあうんうとうう絡ううあうやういありうんや
細筆
とうひうぶうう我んをうぶずありて絡人

墨の名を　細　墨の名とは
字治とは宇佐ぐ宮
ちり出ちりいとぐ出
さ字ぬく墨の名とは
ひくうさはみしうる
をみくるひてうさと
つる感ありてうすく出る
とあり　孟同義
すくうてあるを見るそと
物自とは奥八宋とけ
さあり　孟同義

ほ　墨の名をとわが身ふれいやまろ
ろ　ろ　ろ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとをのひさうにんをくらくらん　孟受仏ま
てりる人の家をとりさ
まつる

この月のつごりり　細三月
除月ゐて任よ母のしく
ゐ
やうて　を日わさうん
孟芝ひとりうりまえぬ
まうよりうんと白の
しうまうまつ　や家あり
しのりり日法母を仏母
ふりうんとく
うみもめのつとうり
宗法うり白文の所をたに
方ふも乳母ゐうてりうの
自中ゐりまりうさ中とた
をみどうりりりもめて
さうふりあうえとく　細芝

の方へたりとゐびさ人今れば
さうふりあうびというん
人ゐてはうりとに伝俗
あれば分をうさうさの
れをさうう
母のれりとよりう
孟法母のりんりさりまま
いりくくよりまりまく
と法ど経みどひまりく
さりげび　ゐういびふり
へゐりてんとのりもわふ
しのさびりそく

まりりんひりのよい
孟法母のめのとん仲殺
がんんりりくゐりはあゐた
くわりりんさりやとく

の、ゐ法ゐ孟受仏の書く
よありゐ紙いとりのひりうんりりりりりく家下つ下ゐく
んとりうりりひゐりりれいりりりりんりりりりり

あやめ[illegible]にの給人
細白の[illegible]ハ[illegible]くま
でも[illegible]
[illegible]山よ　河内宣の八
[illegible]山よこ[illegible]
[illegible]
[illegible]や　孟いろ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
孟白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

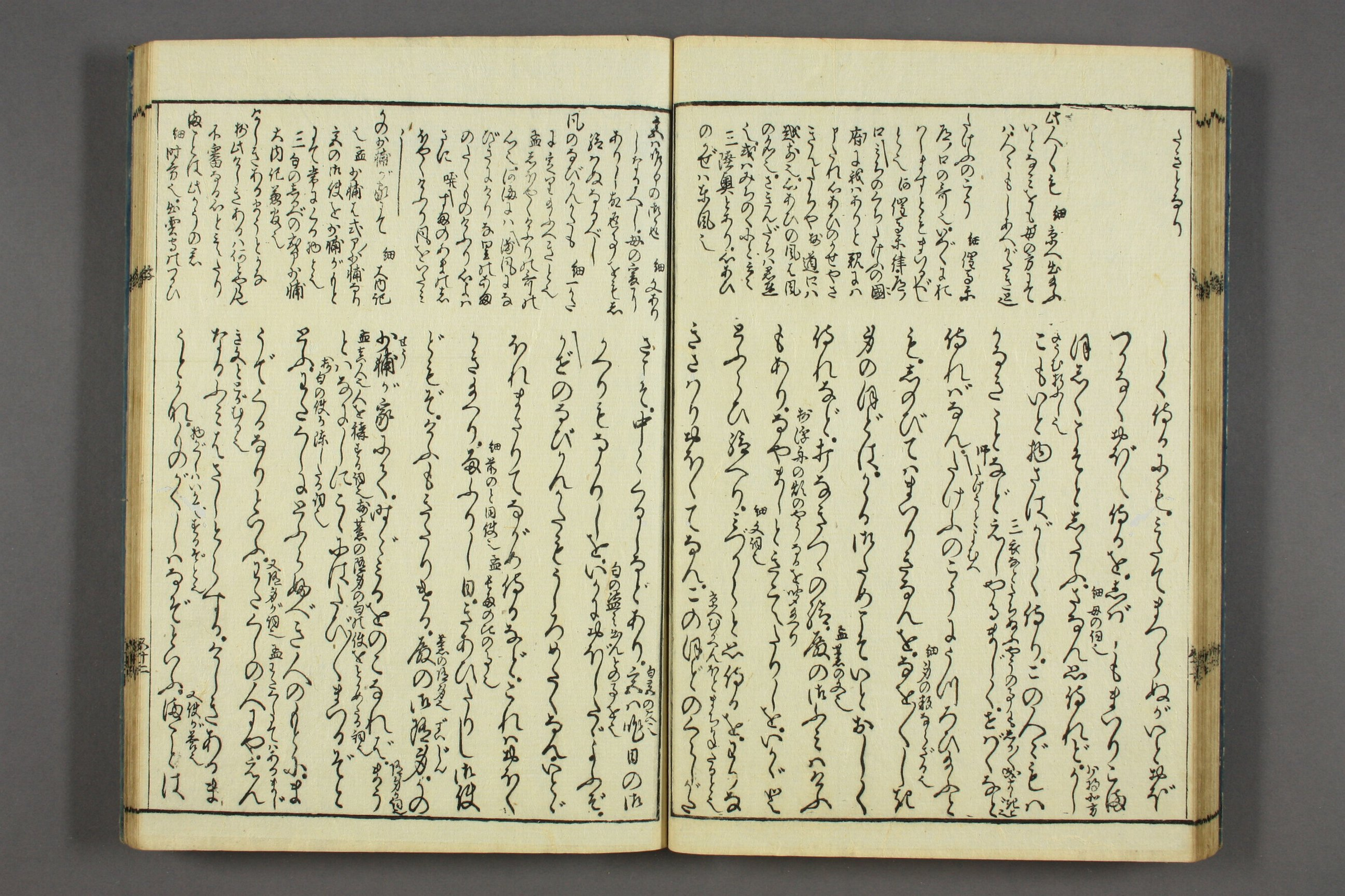
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひ〜されのうぞやうよ
し　花揚が　ひいう〜
紫うれで揚よ付うる
もううりあうるや

うとうぐひつて
松月のお段お遠〜う
やうと

うとひとの〜紙うと
松下人は用ひのうと

雲のぐんうう。沙方の網紙のりうよ作うとの
これ。ひ〜さ。ささのうをやうして。揚よつけさ
弓文とみ〜のつま戸よりて。女房よろう
せ作りつう。紙方うと付てうう。ひつくうとひ作つれば
うとぐひつて。ぐぐうのやうよ作つうとい
うよりをぞうとうて。ま〜つべ〜てうを作つれば
紫アの文よまつり作て。武アか輔うちぐさ
の紙紙よろんその色すはちうを作をうて
ア作つうとうう。細紙　紫の紙方に向まつる紙　その色すはい
ろうみ〜ていぐ〜つうぞ。紙方紫　ぬれうをまつぐ。
うとうとうりいぐ〜作よろう。ぐ人のア作つう
松月紙方白紙すの紙のうう
へ〜ぐうさうう。いてうう〜うう〜うう〜うう

松月〜あつて紙ようう
うう〜　松中文の巻方
うて白のうえうひ〜よう
紫のうひ合せうう

白中ひううあううて
師宗紙は紙といふれうう
うれはうう〜のうはあう
じと紫の紙ひ〜うは
〜うてはうるうれとう

あや〜うまでうぐ〜
松中紫と中〜うう紙
ひ〜うう

ア作つうとうう。孟紫の　孟人とうけてうう作つうと紫のうう　あううう。孟紫のう　あ〜すうよ。あぐよこ
とす。さまうて〜うをつうんとうぐうう　ぬぐをぐ人ぐうう作よろう。ぐ人のア作つう
ぐ〜うすぐ〜れいて紙うをうう。孟白と紫のうひうう　かつすうるうやいううるうんつぐよう
ひとありうとう〜うう〜うひうんいぐひうり
紙うんお中ぐうぐうあううてうのを
ぐうのまぐうれいえうをあうぐとうろうう
ぬうれうれうう。白文のうううとうひつけすう紙のうう　さてうもううぬあうりよう〜さ
ぬすうぐ〜ぐうとものううあぐひうう〜うぐ
てすうてあやう〜うまぐ〜ううぐ〜おてあ
つうう〜うまうり〜ぬみ〜うう〜うめう〜

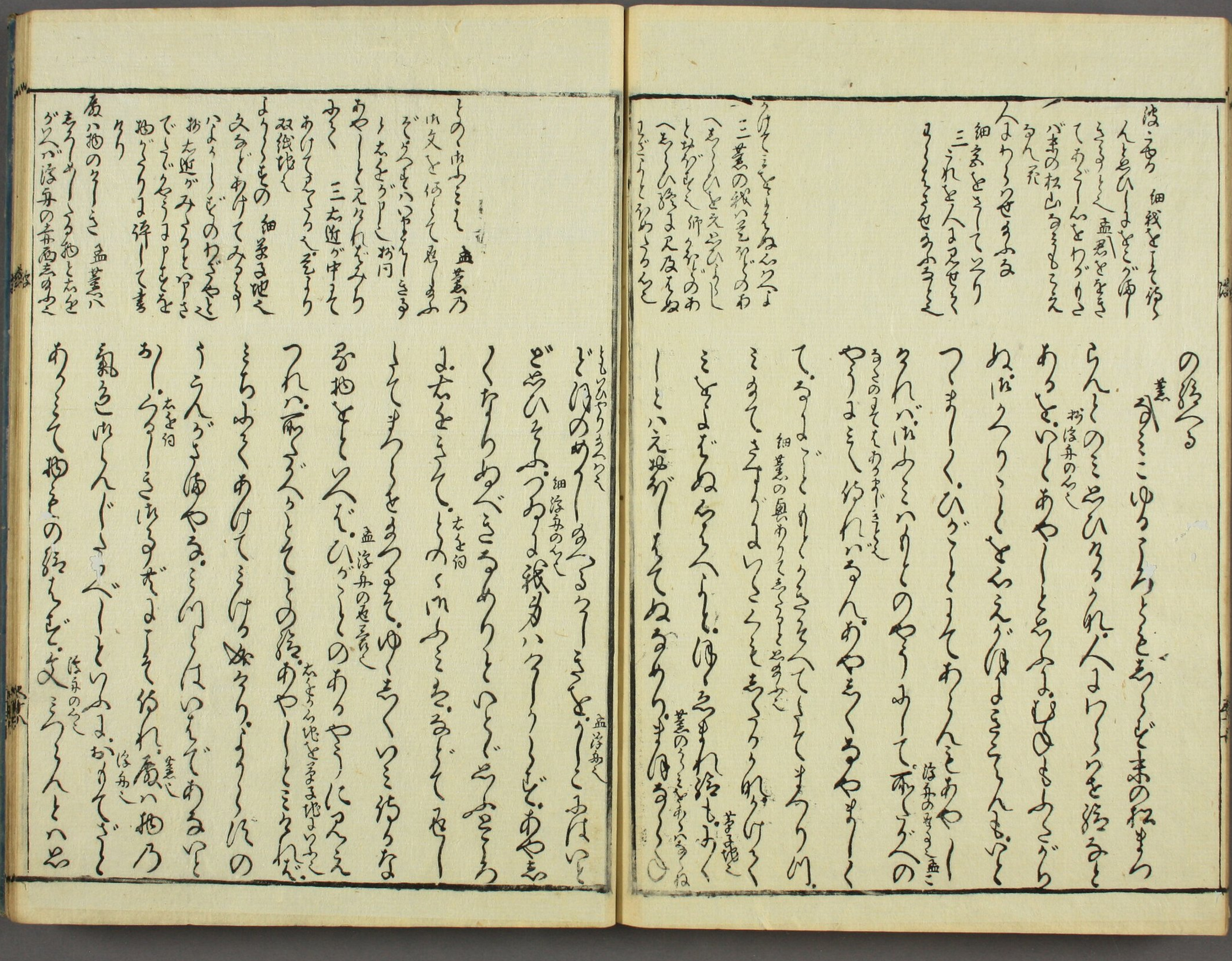
細中禁の
[illegible]

[illegible]
細敷圓篇内二カリミテ 有不疾之
[illegible]師中禁の[illegible]禁の
[illegible]の[illegible]ん[illegible]
[illegible]中禁の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 不調ハ拍子
のぐ〳〵強〳〵しき祈
[illegible] 花内舎人等
[illegible] 具 杖 武勇者
兼坂東 掾也 喫
ひのふたり 剣
[illegible]

[illegible]
三面〳〵の表れ時鄉
[illegible]
[illegible]
細一日の内ありしもあや
[illegible]

[illegible]
よ 庭の鉢じど 給而 この人なんこれこのうど
[illegible]
れがむこの [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

忠臣不仕二君貞女不更二夫史記

日比はほ母のそひるけるまゝにさしそひやるもしらぬくのどうよりまへしと旨えのぬくもの〻ちはんいれのをかもえんまへやしきを

孟乳母はほをもちで墓人由紀のいるをくをよりれてもらとし

孟乳母はほをもちで墓人由紀のいるをくをよりれてもらとし

女房よりのとりてえん
和歌全人が女でえおり
えんとし

くておりてまするど
分法母の字法よおする
るるし

はほ母のうちのをしうをを新く句
よりてきうえまるるこ
ぎよおやもくてのこをみこせまるるこ
けるでのさきさげやくこをんこするよこそ
孟美
るげく廣しうへのあるしやるをぶに
細左ををんしはる
の紙いで日ぶんぬ。ひとどもうどのうと
ふをうりとどをうをおよあり
しのそうげよいてあしくもく。母
つうるうしうしうやこれのこふうれすす
うるうぎ
ぎよそうこうるう。女房よりのこうりこうんこい
わしこ左近内全人ふあるこ
こそこれば云をしこもあへこうり。廣よりの
細内全人ふり句
しうべけこまうり作てこぐどるんやうりこ
雅事ぐこもやうこれつるつそで
よくておつてまする。和歌あれ
このこよる。母よるうくてこうこ母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これ男のうりそこひてあやまちさだをとのこまつもとれば秋野をそなたよろづ高いげよこまいてあくなりぬづさなかりと塩をよりやりいるこのみぐるま　細

このみぐるまこれよりあるこの日いつぞ松の木乃苔のうぐれく物をこそ人盃を日いつそといふよりうていつあるんとりつんとこそ

昔ハけうこうぐろ　細記

男と万葉十六巻と引是男とうけうこうハ縁男をみる和物語よいそしめづのやまよ略後をく人こうこ是も万葉よこうこう河内和物語云伊勢の心よりある女とを西の色家ハの男と和家

西の都奴氏の男と二人してこうぐるを男ぐものを恋女人ハ妻ようるれハ妻の親せんりさるさいせ田川のあるを射あてこう男こうこ男ハ尾を射こう女ハ俗く但俗ハ紙男をハ二人てを男をるけこうこ二人の男もともに男をるけてこ人ハ男をこうこ人ハ女の見をとこうこて配こうこを三の縁よつこうて川竜よりあるを求めつこうこもとこうこ人ハ女の見をとこ

伊古事万葉男ハ女の野原処女の奥嶋ともこうこ紀百ハ男十六を撰よとて女をこうこてこうぐひろこう妻ハ乱してお吾をこうこ永くやめんこうこ志これハ二人こうこ林の中に入くを本ようこうこくくびれくこうせこれハ二人の男こうすこうこ志これハ二人こうこ紙ぬりひこうこ撰の紙ハこうこ入こうこ撰花こうこハ常こうこ入こうこ入こうこ男三人こうこひこれこ妻ハ妻こうこ妻の池こうこ男をこうこてこうせこうこ入こうこ男こうここうこ因万葉十六こうこ有名記

ひいるこうかこうこうぐさあやもこうぐこうこなげこ紙こうこあるこのみどこあるこのみどこあるこのみどこうこ

ぐこうこれ蛍こうこん有りこうぐこうこそこ

こうこひ人こうこ盃こうこ有感哭

こうこ物こうこひこうこぐこうこひこうこぐこうこ世

こうこ世こうこ入こうこ入こうこ入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て　蓋元のうこぐく
まちろわるれバせんう
とうとと

やどてこもはんづひをさせ
まつぐうこん　孟白の
やそて出迎へとまらつせら
れんとあるを聞うみも男
そうてわうんと行抜
が旬し　脇　白文の糸むし
ひ人ものうんと定めるうん
を取とさん

細行抜う旬し
いうろまうようあうこん　慶の乃給ゑ
ありうこて　慶ゐよあう物先のさうこぐうご
ちうこうこ　のうをとうこ
へみこ　物をのこいうこぐく　笑しうあうこう
みうこうよ出出よ行そ浦の男がうこぐうこう
ゆうこのうこけうこさを笑うこぐうこにこ
をうこんぐうこくうんこうこうてまうこう
ようこうひいんぐこうこ行ゐいゆうくよいを
ありうこうんやうこくこうをはんづうひをこさせ
こぐうこんようこうよも人をれどうこ人へて
うんゆうこうこすぐうこうの笑のうこのいぐうこれこ
とうぐうこもうこうこうふかうこまうこうこの男ぐ
うけうこぐあうぐうこうはうこうこよあうん

細行抜う旬し
いうろまうこうこ　慶の乃給ゑ
ありうこて　慶ゐよあう物先のさうこぐうご
ちうこうこ　のうをとうこ
へみこ　物をのこいうこぐく　笑しうあうこう
みうこうよ出出よ行そ浦の男がうこぐうこう
ゆうこのうこけうこさを笑うこぐうこにこ
をうこんぐうこくうんこうこうてまうこう
ようこうひいんぐこうこ行ゐいゆうくよいを
ありうこうんやうこくこうをはんづうひをこさせ
こぐうこんようこうよも人をれどうこ人へて
うんゆうこうこすぐうこうの笑のうこのいぐうこれこ
とうぐうこもうこうこうふかうこまうこうこの男ぐ
うけうこぐあうぐうこうはうこうこよあうん

うこうこ　ハいうこ　ようこ
うこぐ出對西うこうこ
うこと　ゆう方がうこ
白のうこぐうこ　ようこ
行抜ようこ　ゆうこ
ようこうこ

細なの慶のうこうこと
ようこ笑ありうこ　位山里び
うこうこようこ笑ア紙うこう
位山里めうこうこうこ
位うこうこ　行抜ようこ
一天迎入吹　放野に群牛ハ
引鬱体

ようこうこうこうこ
おゆけ方うこうこうこうこん
行抜をうこてうこうこ
うこう
うこわうこうこうこうこて
行抜うこていこ　お髮を
脇のうこうこうこよこう
うこ祈こ

細行抜う旬し
ハ對西うこうこ
うこうこうこ　ようこ
うこうこうこ　ようこ
うこうこうこ　よう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ざくれだそ人じたよ蟲
のえいあやーうて弦くら
し和れうそですうくく

いつくよう　何いづくとも所さ
いかぬ雲のうくらね
山いあくどくそ切りふ捨き
作浮舟よあひまくで思
日の如なうわうつ身を
なくさみもなくんとそふ
くいづくくをそひざ
めぬゆくそひこ郎し
くくく海なくくし

去をいひくくう
細去をいひ叶ずくくさの
をりせうくをいくるこ
盂行坂が文の出方にま
いうくくう行て去を白
文のおりくくを入なく
人ま叶いぬうしひき
をくくく浮舟よ浮り

とひくけるどすうようひくさるくしあや
ちくくるのくどもの多して央あやうくるど
いふもいくと白のくくうくあつくくしくれどくうくふ
ゆどいくいくくる
盂白の方
いづくふう身をどをそんと白雲のくくらね山
とるくくくそゆくくくだやくくて人行坂をを
くくくまふかくくれる海めくくかくれう
央みくくくを寄よくうくくうれるのくくるる
どくゆくくん行坂くくくるすがくくぞうくくくう
去をくいひくうくうよくいひねくうよくみ
いいくくふひくどくくくくくゆうくくてふくくの
細行坂くくくう
浮舟のさあくくくう

やくう所くく文行坂ゆうて
文行坂をくくくく
あくくくくん海く
細海和るくくくよあひ
くうまくくを和くくう
むどくよふくくう
盂文和くく作　ひくくく
わくくく
ひびくくうけあどく
細年武一年ひびを
してくくわり作むど
よくくくうとひて文
ハかくくてのさあく
ありくくをくくうく知く
およ白のふくうあにえ
ふどくくんかどふ光をえ
えくくのまひく絵く

びくくも紙さ
海を行くくくくん
くくくくん浮舟のえ
細行坂
ひくくうけるどくて絵くひ
細年武一年ひ
げよ坂びくくうけ
まあるくく
くどくくうる
しあをくくり出くくくて行くくてつくこう
かのあうひくどのひひゆくくくんやう
よ坂ゆくれびどくくくをどよくくくて
ありあくくふう紙い海ひくまくりていく
じくくあふのくどくくさ海くくくん
細美のうせさあくくよ行
くくくをくくくくくくどさくく紙のまひくく
ひくくくくくくくいくどいくどがくくんくくいくくあくくくく
細ろくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それハ又弱きものを
まづしきものを憐世
よしなきわざなり

人のいひしにしたがひて
細に海よりこれを作る
海は解夢書を引給
ふるこころを
時に立ちまさりて世をうらみ
盂蘭盆の日ものの
会あるべしと

まことに海のこころを
盂蘭盆の会をなるのこと

いとなりうんとこれをなげつるくく
やをちんとひやをて京より母のはかをと
てこそうれわれの義よいてこそ
くてこそ給つれば給そこのつぐよをそせ
なるやうくその義のこのねれ
ぎりつるけやこで今ひろわて作る義
よ人のいむとこのこそうんこ給つれば
ところこてはけ
ところさるべくくてまつるくてし海
とまへ人でなれこれを海なるく時ごと
ちちをを給人のはゆりもいてはそこ
くるやまりしげよ物をせ給ありしゆ
めのうちをこのげよまんなるまつり

の縁産あれいと母のみ
の物

それ行くの物　ゆ　誦経
の料

こ海のこをかるのくこれ行てこのこ
げよりのくけざらてるやこ作れげこは
をこちこうこ寺よりもけず経をこせこ
人そのちこさ寺よりもけず経をこせこ
こそそれこの物文なるこうこそこてりて
ここうこうこ命の経をこてこ
くひこけこるもいてこるこ寺
へ人やこ留わこ作こまこくこまこ
こ海こ留わこ作こまこくこまこ
のこよ
世の義よんまこでず経のこ乃海よつ
ここここをここここここ

のこよ　盂蘭盆の会
細今生ハ
をを給
いここ

清のとしの　孟浮舟の寺
そ赤表紙作わとそ
つくしハ紙すくねとそ
つくしく　そんよとハ親の
しるり
りてしるしるこのしるしつけて
作誦経してなの巻
数よりなしてもの
ふぐしつて　細むなさうぎ
のすりし　母人よあそん
つきのなさよいそひを
しそむなそつて史よ
ふやけくり

浮舟
のとしの　孟浮舟の寺
そ赤表紙作わとそ
つくしハ紙すくねとそ
つくしく　そんよとハ親の
しるり
りてしるしるこのしるしつけて
作誦経してなの巻
数よりなしてもの
ふぐしつて　細むなさうぎ
のすりし　母人よあそん
つきのなさよいそひを
しそむなそつて史よ
ふやけくり

さうぐうれど
細めのとれさあのさ
くあるひさあれど
わがあるくやりあぐ
いくあるんをそんと
花しりをそくあれ
しそのつく

浮舟
のとしの　孟浮舟の寺
そ赤表紙作わとそ
つくしハ紙すくねとそ
つくしく　そんよとハ親の
しるり
りてしるしるこのしるしつけて
作誦経してなの巻
数よりなしてもの
ふぐしつて　細むなさうぎ
のすりし　母人よあそん
つきのなさよいそひを
しそむなそつて史よ
ふやけくり